

理事長声明

2016年2月

「戦争法」廃止！立憲主義回復のための「2000万人統一署名」にとりくもう

長野医療生活協同組合

理事長 花岡邦明

昨年9月、安倍自公政権は「安保関連法」いわゆる「戦争法」を強行成立させました。この暴挙に対して、憲法も民主主義もふみにじる「戦争法」は廃止しないと「戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会」は2000万人の目標を掲げ、統一署名を呼びかけました。

安倍内閣は、「平和安全法制」であり成立により我が国の安全が格段に高まったといえます。しかし、法律が発動されれば自衛隊が海外で武力を行使することが可能となり、再び戦争のできる国となるもので「戦争法」に他なりません。この法律に対しては、多くの憲法学者、元最高裁判事、元内閣法制局長官、日本弁護士会など法律の専門家がこぞって「憲法違反」であると指摘しています。国の政治は憲法に基づき行われるということは近代国家では当たり前のことです。この立憲主義を否定し、多数であればなんでもできるということになれば国の根本が揺るぎます。さらに、かつてないほど広範な国民が反対の声を上げ、世論調査でも反対の声が多数である中で法案成立を強行させたことは、民主主義の破壊でもあります。

戦後70年間、我が国は外国に対して武力の行使をすることなく、平和国家としての歩み続けてきました。憲法の平和主義が大切にされてきたからです。こうした歩みを乱暴に踏みじり、立憲主義を否定し、民主主義を壊す暴挙により成立させられた「戦争法」は廃止するしかありません。残念ながら世界では紛争が絶えず、テロ行為が各地で広がる状態が続いています。しかし、武力によってはこうした問題は解決しません。憎悪の悪循環が広がるだけです。日本国憲法の平和主義の精神こそ世界の規範とすべきです。

「2000万統一署名」を集めきり、「戦争法」を廃止させ、民主主義を取り戻そうではありませんか。長野医療生協では組合員・職員で4万7千筆を目標に取り組むこととしました。お手元に署名用紙が届いていることと思います。これまでやったことのない目標数ですが、「平和をつくる」医療生協として全力を挙げましょう。